

れるであろう幾つかの事業の中で、一つは、角野栄子さんの例えば美術館といいますか、記念館といいますか、この整備はやっぱりいいだろうと。だけど、付随してフラワーガーデンをつくるということはまだ勉強不足だし、議論が必要、理解が進まない。もう一つは、かわと道の駅は、これはやっぱりいいだろうと。だけど、付随して最上川沿いに4町4畝の公園を整備する必要が私は見当たらないというのが私の率直な気分です。だから、一般質問でも、4つ全部しなきゃならないのか、部分的にするということではできないだろうかというふうに質問をさせていただいています。そういうことで議論できないのでしょうか。

何か議事録を見て、あるいはきのうのやりとりを見て感じるのは、今度は国交省が出てきてみたりするもんだから、とっともややこしくなっていて、しかも協議会では、委員の質問に対して課長の答弁は、今の段階でできないという内容のものが繰り返されてるわけですけども、そういう中で、なかなか議論して判断できないというのが率直な私の今の考え方なんですけれども、そこについてはどう思われますか。

○安部 隆委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 少し話を自分なりに整理をいたしますと、このたびまだ議会のほうには都市再生整備計画はお認めいただいてないという認識なんですね。これは間違いないと思ってます。それは説明不足等々あるいは資料をきちんとお示しできなかったということもあって、3月では、いわゆる都市再生整備計画の部分は修正で削られたということでもありますので、今回、全体像をまずお示ししたいということで委託事業をさせていただきたいと。その中で全体像を示しながら、ここはどうかのというような議論を深めていければなど。今の段階でちょっと私がかみ合わないわけですね、どこか資料を見て一緒に話してるわけじゃないもんですから。

ですから、その全体像をまずやっぱりお示しさせていただきたいと。

それが3月の修正案可決に対する私としての反省ですし、それを真摯に受けとめながら、やはり全体像をもう一回話ししながら、例えば角野さんの記念館的なものは今回の都市再生整備計画では考えていないんですね。別の事業を組み合わせてやるべきであろうと。それはどこで事業主体するかも、これもこれからですけども、例えば経産省の事業であったりとか、さまざまな事業、例えばあとは農家レストランの部分も今回は全然組み入れてませんので、そういったところも別なやっぱり農水省とか、経産省の事業もあるんですが、そういったところも組み合わせながらというふうに考えておりますので、まずは全体像を1回お示しさせていただければというふうに思っています。

○安部 隆委員長 高橋孝夫委員。

○13番 高橋孝夫委員 時間がありませんので、最後に一つだけ申し上げますけれども、今回の業務委託をするということで行われているのは、議会からの求めがあったからということも理由の一つになったというふうに思います。だけど、議会で、それでは、これは必要ないと、議会は求めていないというふうになれば、これは今回落とすというお考えはおありですか。ここのところだけお聞かせをいただいて、質問を終わらせていただきたいと思います。

○安部 隆委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 それは議決をいただいた後で、ちょっと検討させていただきたいというふうに思います。

渋谷佐輔委員の総括質疑

○安部 隆委員長 次に、順位8番、議席番号12

番、渋谷佐輔委員。

○12番 渋谷佐輔委員 私も、議会では年長議員などと呼ばれまして、大変プレッシャーを感じておりますが、しかし、地域密着型の現場主義の議員ということを目指し、この議会に送っていただきました。もって、今、地域では何が起きているのか、何が課題なのか。そういう中で、質問あるいは提言、要望をさせていただきたいと思っております。

それでは、通告書に沿って質問させていただきます。

まず1番目の市民体育館の修理か存続かと、この件につきましては、赤間委員も触れておられました。重複は避けたいと思っております。

その中で、去る2月21日開催の平成23年度スポーツ振興審議会、資料として長井市体育施設整備中期計画素案が示されております。その中で、市民西根体育館、市民平野体育館、今後の課題が記されております。どちらも一見して特に屋根、どうするんだと。この状態を市長はどんな感想をお持ちなのか、お聞きしたいと思います。

○安部 隆委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 簡潔にお答えさせていただきたいと思っておりますけれども、地元の方はご存じかどうかですけれども、これは廃止ということで集中改革プランではうたわれた施設であります。それをやはり地元のご要望があるということで残してきましたので、ここを地元の方と話し合いをした上で、どうするかということを検討すべきだというふうに私は思っております。

○安部 隆委員長 渋谷佐輔委員。

○12番 渋谷佐輔委員 この中には、ちなみに「市民西根体育館については、耐震化が課題であるが、耐震化は行わず、屋根改修を実施して、今後10年をめどに使用していきたい。」と。それから、「市民平野体育館については、大規模な改修は実施されておらず、フローリングも相

当傷んでる。長期利用は危険を伴うので、屋根の改修を実施し、耐震化を行わず、今後5年をめどとして使用し、以後、廃止を検討する。」

市長、これでよろしいですか。

○安部 隆委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 それは、私ども市長部局にはまだ正式にはいただいてないです。今回、いわゆる教育委員会の内部での事務方での素案を教育委員会が了承されたというふうに思っております。ですから、長井市のほうで、じゃあそれに対する予算をどうのこうのというのは、これからですし、あくまでも素案ですから、それをこれから市民委員も含めた、さまざまな形で議論されて決定されるべきものというふうに思っております。

ちなみに先ほどのご質問の中でもあったんですが、例えば西根だ平野だとは言いませんけれども、これを何とか廃止しないで、できるだけ使えるだけ使わせてほしいということは地元の方からいろんな声としていただいております。ですから、これがなくなったら、やっぱり後使うところがないわけですね。そうしますと、なかなか不便だから、使えるだけ使わせてもらいたい。必要な部分は修理して、まず少しでも長く使いたいというような希望は私も直接何度もいただいております。

○安部 隆委員長 渋谷佐輔委員。

○12番 渋谷佐輔委員 その部分については、私も西根、平野両地区の関係者から伺っております。地域の地元の、あるいは体育館は西根、平野だけの地区民でなくて、例えば学校の部活あるいはいろんなイベントの会場として本当に利用されております。そういう意味で、体育施設あるいは教育施設ということでは大事な役割を果たしていると思っております。それで、この計画の中に5カ年計画ということで、市民西根体育館は屋根改修工事、平成24年度、25年度2カ年にわたって749万円、市民平野体育館について

は、屋根改修工事、平成24年度178万2,000円計画されており。市長、この実施についてご意見をお聞かせ願います。

○安部 隆委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 先ほども申しましたように、その案について私は決裁しておりません。決裁の権限はありませんので、教育委員会の中で、それを内部として固められたと。ですから、今後、私のほうからお願いしてるのは、やはり教育委員会が、あるいは市が勝手にやったと言われないうように、しっかりと市民の声を聞くような形で最終決定をしてくださいと、こういうことはお願いしておりますので、それらの手続をことしとられるものというふうに思っております。それで、その結果、市のほうで、こういった予算をつけるべきだというご答申であれば、これはその努力をしなきゃいけないというふうに思っております。

○安部 隆委員長 渋谷佐輔委員。

○12番 渋谷佐輔委員 これは財政問題、財政運営と深く関係があると思いますし、まず現状をご理解いただいて、予定は未定であって、決定でならずなどということのないように、地域と一緒に考えていただきたいと思います。この件については、以上であります。

続いて、古代の丘から見えるものというタイトルにさせていただきました。魅力を発信し、活力につなげるべきだ。

古代の丘は、いろんな顔と形を持っております。そして、非常に魅力というものを多くの方が感じておられます。しかし、なかなか発信が下手だということのどうなのか、もっと古代の丘に来てほしいなというのが地域の方々の声でございます。古代の丘の魅力について、市長はどのようにとらえておられますか。

○安部 隆委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 古代の丘については、やはり縄文の遺跡を初め、さまざまな史跡がたくさん出

ている、置賜の中でも古くから人々が住み続けた、大変いろんな意味で恵まれた地域だったんだらうというふうに思っております。特に現在、古代の丘から長井を初め置賜盆地を見ますと、非常に心がいやされますし、あとは不思議なパワースポットがあるといえますか、市のほうでも、さまざまな事業を活用して施設整備をし、それを地元の皆さんが一生懸命維持管理していただいているわけですから、そういった意味でも、不思議な魅力のある、大変長井としても一、二を争うすばらしい場所だらうというふうに思っております。

○安部 隆委員長 渋谷佐輔委員。

○12番 渋谷佐輔委員 市長がおっしゃるとおり、長井を訪れたお客様なんかに、あやめ、つつじ、花等々で、桜等でも来られるわけですが、その季節を過ぎたときは、はて、どこに案内するのかと。昨年、長井ダムが完成しましたが、長井ダムを紹介するというのもありますが、やはり古代の丘が一番フルシーズンいらしていただける場所だなど、すばらしい環境だと思っております。

そんな中で、やはり昨年、「ぼくらの文楽」なんかの会場として目をつけていただいて、彼らにとっては大成功だったと喜んでいただいております。また、バンガローの北側のはげ山、いわゆる地元で片倉山と呼んでますが、そこに地元の有志がボランティアと申しますか、一部緑環境税を使わせていただいて、桜とか、もみじとか、いろんな木を植えさせてもらいました。シーズンを通して花見に来ていただきたいという願望もございまして、先日も草刈りなんかを行いました。

そんなこんなで、地元でも一生懸命何とか長井市の一つの顔にしたいなという努力で頑張っておりますが、もう一つ、このよさを情報発信したいと。なかなか方法が見つからないと。先日、西根地区公民館で西根未来考というような

講座というか、先ほど出ました「ぼくらの文楽」の代表の船山君、吉田君と2人が見えまして、地域の方々と懇談会がありました。やっぱりこれからの地域を考える時、よそ者、若者、ばか者というのは余計かもしれませんが、その発想というのを改めて感じました。

彼らの持っている情報量というか、考え方というか、我々のような年長者にはとても追いつかないような発想もありました。そんな中で、先日も話がございましたが、草岡にこの土地のよさを見つけて、この長井西根に住みたいという話もされました。そんなこんなで、非常に彼らが持っている知識あるいは能力というものを何とか生かすことができないのかなと、つくづく感じました。そういう若者の発想を市長はどのようにとらえておられますか。

○安部 隆委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 一概に若者といっても、去年、「ぼくらの文楽」を企画されたあの若い人たちというのは、本当の自分が生きていく上で大切なものは何だということをよくよく考えて、いろいろ行動されてる人たちだと思ってます。若者といっても、いろんな方がいらっしゃると思うんですが、特にその中のお一人、あるいはこれからも西根に居を構えたいという方がいらっしゃるんですけども、もちろん自然とか風土、そのよさということもあったんでしょけれども、人々とのつながりとか西根の人たちの心を非常に、自分が求めていたところはここだなということで、仕事はそれぞれ違うようですけども、そういった形で求めてきた人かなと思ってまして、非常に私は歓迎すべき若い人たちだと。こういう若い人たちの考え方をぜひまちづくりにも生かすべきであろうというふうに思います。そういった意味では、大変うれしいことだなと思ってます。

○安部 隆委員長 渋谷佐輔委員。

○12番 渋谷佐輔委員 聞くところによります

と、彼らにそんなしてイベント企画ばかりやって、生活はどうなんだと、さもないことを聞いたんですが、時代の申し子というか、インターネットを利用して、いろんな企業とタイアップして仕事をもらってるんだと。それが我々にはわからないような仕事だったようでございますが、ただし、彼らの持っているネットワークというのは、常に1万数千人のアクセスができるんだというような話も聞きました。そういう情報ネットワークというものを生かしながら、長井市の情報を発信してもらったり、あるいは長井市のよさというものを発信してもらったらいいんだろうなと、つくづく思いましたので、ひとつそういう面でも、いろいろ行政当局もコンタクトをとっていただいてやっていただけたらいいなと思ってます。

また、これ一つ残念だったなと持ったのは、吉田君という方が今、西根に住んでますが、川西町の嘱託職員として採用されたとかと聞きました。ただし、週3日とかということでしたから、何か頭脳がそっちのほうに引っ張られるのかなと、ちょっと寂しい思いもしましたが、そういうことも、何年契約であっちのほうに行ったかわかりませんが、いつかの機会にひとつ話を聞きながら生かして行ってほしいなというのが私の希望でございます。

それで、もう一つ、資料館及び遺跡群を学校教材としてどのように生かして使っているのかなということがちょっと気になりますので、市長、わかる範囲で、ひとつどのように生かしているのか、お聞きしたいと思います。

○安部 隆委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 市内小学校の社会見学などでも、縄文の人たちの暮らしとかということで、今の古代の丘資料館初め住居跡などを利用しながら、市内はもちろんですけど、西置賜、遠くは村山のほうからも何校か社会見学にいらっしゃるということ聞いております。ことしの4月でし

たけれども、地元の保存会の皆さんがお見えになりました、4本柱が出ましたですね、史跡、これは山形県では唯一ですし、青森県の三内丸山遺跡でしたっけ、それ以降は余り東北でもそういった類似した遺跡が出ておりませんので、これはぜひ復元したいということでしたので、市としても、ようやく財政的にも正常化しつつありますので、ことしから来年あたりにかけて準備をして、それをやったらいいんじゃないかと。

ひいては、担当の文化生涯学習課で、それをどういうふうにして今度は生かすかというところをしっかりと計画を立てながらやっていきたいと思いますという話をしたところです。そういった意味では、まだまだあそこの活用の仕方等、地元の人も含めて、どういうふうにして古代の丘を活用して地域を活性化するかということ、行政だけでは限界がありますので、地域の皆さんと一緒に模索していくべきだと思っております。

○安部 隆委員長 渋谷佐輔委員。

○12番 渋谷佐輔委員 やはり限られた人だけのポイントでなくて、長井市全体の、市民みんなが古代の丘を魅力あるものに育て上げていきたいなと思っております。そんな中で、行政としても要望があって整備したから、これで終わりではなくて、やっぱり地域の人とも、現場で管理してる方々とも、いろいろ意見交換しながら情報を共有しながらフォローアップというか、常に共有していただいて、魅力を高めて、情報を発信して、長井市の地域の活力に結びつけてほしいと思います。

その点の2項目めになりますが、アクセス道路対策、これにつきましては、以前から長者屋敷線から古代の丘資料館につながるアクセス道路問題、いろいろ提起されてます。資料をいただいたところ、やはりこのように赤い線が市の買収済みという用地になってます。財政に余裕

が出れば、すぐにできるような距離と面積でございます。そういう意味で、この道路が完成すれば、古代の丘資料館の効果も高まる。そして、古代の丘一帯の魅力も発信もできる。そして、北のほうへ行けば、堤を超えて体験交流センターがある。そして、向こうにも駐車場があるというふうに、動線がつながるのではないのかなと私は思います。そういう意味で、この買収した用地に、これ目的が道路を整備するんだということを買収したと聞いております。そういうことで、一日も早い着工というか、地元の方は望んでおります。地元の方が言うには、高規格の構造でなくても、大型バスが通れる、あるいは乗用車がすれ違える、その程度の幅員でいいのではないかというような要望もございますので、市長、その辺についてちょっと。

○安部 隆委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 答えたいします。

古代の丘にアクセスする道路及び広域農道にアクセスする道路の2路線があそこは関係するわけですけども、縄文遺跡を中心として整備が進められている古代の丘に通ずるアクセス道路として、また草岡、草西地区の生活道路として、さらには主要地方道長井白鷹線と当時の広域農道を結ぶ広域道路ネットワークの形成を目的として、平成8年度より地方特定道路整備事業・長者屋敷線道路改良工事として本格的に道路整備に取り組んだところでございました。

平成10年度まで3カ年整備をいたしましたが、平成11年度以降は行財政改革のため休止しているというのが現状でございます。これはご承知のとおりだと思います。今後の道路整備については、半裁木柱遺構、これ4本柱ですけども、この保存計画も含め、一体とした整備を検討しなければならぬと考えておまして、まずはこの半裁木柱遺構、4本柱ですね、これを来年度を目標に、ことしから準備をしてつくったらどうだということで計画をしておりますので、

今後としては、まず経過といたしますと、市道長者屋敷線及び市道長者屋敷2号線については、道路整備請願が昭和58年6月議会で2路線とも採択されているという状況でございます。

整備状況でございますけれども、平成8年に、先ほど申し上げました事業により本格的に着手したんですが、当時の事業概要は延長が733メートル、幅員の構成は、車道6メートルの路肩が2.5メートル、片側歩道3.5メートルで、全体幅員が12メートルを予定していたと。全体事業費は2億5,000万円だったんだそうです。うち平成10年度まで3カ年にかけての事業費が1億5,500万円ということでありまして。延長733メートルのうち完成してるのが396メートル、延べ延長で337メートルということでございますが、用地取得については完了してまして。

用地取得して、工事をやる際に遺跡が出たものですから、ストップしたということなんでございますが、各路線ごとの整備延長、長者屋敷線は、これかなり細かくなりますので、ちょっと省略させていただきますが、当時、長者屋敷線道路改良工事のルートは、長者屋敷遺跡の西を通るもので、遺跡調査を行い、記録保存の形で進める予定でございました。教育委員会では、何らかの遺跡は出るだろうという予測はあったんですが、平成10年の遺跡調査の結果、今から4,000年前の縄文時代のもので、県内初のクリの木を縦に半分に割った4本を立てた半裁木柱遺構であることが明らかになりました。その後、長井市では、この遺跡を後世に残すことに決定し、したがって、長者屋敷線道路改良工事のルートについては、半裁木柱遺構の西側を通るルートに変更せざるを得ないというふうに当時は判断したということでございます。

現状及び今後の整備計画でございますが、少し長くなって恐縮です。長者屋敷線道路改良工事については休止の状況でございますが、今後、道路整備については、半裁木柱遺構、4本柱の

保存計画も含め、一体として検討しなければならないと考えております。そのため、財政の中期展望に照らし合わせながら進めていきたいと考えておまして、今後、道路整備に必要な事業費等については、当初計画でいきますと、工事費で9,500万円ですが、それにルート変更による測量設計及び用地測量などの業務委託と用地補償費がプラスしてかかることとなりますので、1億数千万円の工事費を見なければならぬと考えておりますので、その辺は計画を立てて、中期展望と照らし合わせながら進めていくべきものと考えているところです。

○安部 隆委員長 渋谷佐輔委員。

○12番 渋谷佐輔委員 わかりました。ただ、古代の丘、長者屋敷遺跡、この魅力を高める、そしてみんなに親しんでもらうには、やはりアクセス道路が大事だなと思っております。そんなようなことで、ひとつ前向きに検討していただくようお願いします。

次に、3番目の道の駅構想でございます。

質問については、昨日も、また先ほど高橋委員からも、いろいろ観光拠点施設について議論がなされました。若干重複する部分がございますが、私も道の駅構想については特別な関心を持っております。特に遠出をする場合、長距離運転をする場合、道の駅は私にとってはやっぱり欠かせないというか、非常に関心のある施設でございます。一つのオアシスとして利用させてもらってます。この道の駅が長井にあってもいいというのは、いつも思っておりました。今般、この道の駅構想が示されたことで、私も前向きに考えさせていただいております。

雑誌ですが、このように「道の駅」という本もございまして、これは何年ですかね、昨年発行ですか、全国で970カ所、地域の入り口ということで、道の駅は大変注目を浴びていると。これは皆さん、ご存じかと思えます。そんなようなことから今回、質問通告させていただきま

した。

まず1つ目は、市長は、いつからこの構想を練り始めたのか、構想をなされたのか、ひとつお聞かせ願いたい。

○安部 隆委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 具体的に道の駅というふうにして必要なのではないかなと自分として認識したのは、平成19年から21年までの長井市経済再生戦略会議の中で、道の駅、そして市民直売所という、市民の皆様からの強いご意見、ご要望など、そして自分たちもかかわっていきたいということがございまして、そのときに道の駅ということを経長井市としてもやはり実現すべきだなどと思ったところでございます。改めて今生きてます第4次総合計画を見てみますと、その時点で第4次総合計画の中に道の駅をつくるということが示されてございましたので、以前から長井市としても道の駅をつくるべきだというふうな市民の意向があったんだというふうにご認識しました。

一方で、それをかわの駅ということについて少し発展させたのは、実はかわの駅については、私が市会議員の時代に、今は奥州市ですけど、水沢のほうに出向いて、ちょっと勉強に行ったことがございます。やっぱり川を生かしたまちづくりということで、その当時、全国的には珍しい川の駅を持っていました。それが長井市が平成22年にかわまちづくり事業、国の直轄事業を採択していただいたことから、さまざまな整備を行っていただきまして、その中で、やはり長井は最上川舟運で非常に反映したまちでございまして、そういったこれからの長井市の物語としてのまちづくりも進めていく上で、かわの駅構想というのは非常に市民はもちろんですが、市外からいらっしゃる方にもわかりやすいコンセプトだというふうなことから、この道の駅を長井の場合はかわの駅としても活用すべきでないかと考えたところでございます。

○安部 隆委員長 渋谷佐輔委員。

○12番 渋谷佐輔委員 2番目に通告させていただいて、道の駅から何をしようとしているかという部分にも今触れられたようですが、改めて市長からお伺いします。

○安部 隆委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 先ほど渋谷委員がおっしゃったように、やはり今は車でちょっと小旅行というのが一般的な楽しみの一つなんですけども、そういった中で、道の駅というのは、コンビニだけではつまらないので、ぜひ寄りたところの一つだと思います。そういった意味で、いろいろな道路の案内、それから観光案内、またトイレ休憩も含めた休憩所ということがあるわけですが、経済再生戦略会議で市民からいただいた市民直売所、これ菜なポートとして実現してるわけですが、これをさらに維持・拡大する上で、道の駅に機能を持たせれば、より農業の振興ですとか園芸作物等々、あるいは市民の皆様が農家以外の方の実験店舗としても、いろいろもっと活用してもらえないかというふうにご考えたところでありますし、ぜひその際には、なかなか売れ残りなどの問題もありますので、食品の加工、農産物の加工であったり、あるいは地元の農産物を食べさせる農家レストランみたいなものもあわせて整備することによって、かなりの部分で経済の活性化、地域の活性化につながるだろうというのが大きな目的であります。

あともう一つ、ちょっと長くなって恐縮ですが、例えば前々から地場産センターというのは、何とか市からの補助金をできるだけゼロにしていくべきだろうというふうにご思っていました。公益事業として、いろんな事業をする際には、これは支援いただくのはこれからもあると思いますが、いわゆるタスの、地場産センターの維持管理で数千万円もいただくというのは、やはりどこかで断ち切らなきゃいけないと。その際

に、今、物産館が中に入ってるわけですが、あそこ物産館はやはり限度があるだろうと。その物産館をこの道の駅、かわの駅に移すことによって、相当程度売り上げが伸びるだろうというふうに、これは私の素人考えだけじゃなくて、プロの方々もおっしゃってますので、そういったことによって地場産センターがより体制を変えていくためのきっかけづくりになるんじゃないかなというふうに思っております、そんな多目的で考えたところでございます。

○安部 隆委員長 渋谷佐輔委員。

○12番 渋谷佐輔委員 イメージすれば、いろんなことが膨らんでくると思います。

そこで、3番目、どんな施設を配置するのか、そのコンセプトはということで、私たちがいろいろ視察研修等々で道の駅を通るわけですが、例えば指宿市の場合は、コンパクトと申しますか、めぎみの里のような大きな建物ではありませんでした。本当にコンパクトで、食事ができる、その地域のお買い物ができる。その程度でした。あと三重県でしたっけ、熊野市、ここを通ったときは「かあちゃんのお店」ということで、本当に地元のお母さんたちが8人、9人ぐらいで出資はしてないんだけど、まちがつくったとかって言いましたか、自分たちで生産してお客様に提供すると、そういう、これも道の駅として国がつくったトイレや、それから案内所と隣接してつくっておりました、本当にコンパクトな。そういう道の駅もあるんだなというのが私の実感でございます。ですから、私としては、あんまり夢膨らませて大きなもんつくって、後でどうだということのないようなイメージをしてるんです。市長、コンセプトとか、その辺について、ひとつお聞かせ願いたいと思います。

○安部 隆委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 やっぱ渋谷委員おっしゃるように、例えばめぎみの里というと相当大きい道の駅だと思います。ですから、県内でも一、二

ぐらいの売り上げですし、非常に知名度の高い道の駅なんですけど、私たち長井の場合は、中心市街地に考えておりますので、そんなに大きい規模は必要ないだろうと思っております。しかし、ただ単に休憩所とか何か物を買ったりとかということではなくて、長井を知ってもらうための拠点として考えたい。そこで休んだときに長井に関心を持っていただけるような、そういう施設にしたいというふうに思っております。

先ほど言いました舟運のまちだったわけですから、そういったものを感じさせるようなかわの駅も兼ねる。同時に、長井のまちにある舟運のさまざまな町家とか、栄えた商家とか、そういったものが残ってたり、文化があるんだと。そういったことで、ぜひ長井のまちなかに行ってみたいとか、そういったものにつなげていくコンセプトを考えていきたいなと思っておりますし、あとは地元のレインボープランでつくった農産物をその場で食べさせられるような、そういったものも道の駅の機能としては、これはまた二次的なものですけども、考えていくべきだろうというふうに思っております。

○安部 隆委員長 渋谷佐輔委員。

○12番 渋谷佐輔委員 その辺も、これから議論をさせていただいて、進めていきたいと思っております。

その次に、4番目、場所の選定ですが、やはりこれ示されてるあの場所にコンクリートされたのかなと思いますが、市長はどうですか。

○安部 隆委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 道の駅については、大きく郊外型と、それから市街地立地型に区分されると思います。どちらかというと、我々、一般的なのは郊外型が多いわけですけども、多くの市民の方が利用する市民直売所や街路事業を柱とした中心市街地の活性化を図るために、私は、郊外型ではなくて、長井の場合は市街地立地型にすべきだというふうに思っております。したがってしまし

て、場所的には、やはり交通量のある国道沿い、287号線沿いで、さくら大橋から長井橋の間であろうということで、候補地が何カ所かあります。前々から、新たに長井の道の駅はつくるのではなくて、タスとか既存施設を利用したらいいんじゃないかというご提言などもあります。なかなか改造するというのは非常に難しいというふうに思っています、やはりこれは、そういった場合は補助を受けるのはかなり難しくなりますので、別な施設として立地を考えたほうがいいのかと。

本来であれば、一番いいのは、やはりタスの周辺とか、つつじ公園の周辺が一番望ましいのかもしれませんが、一方で舟運文化というふうに考えた場合は、小出にも船着き場があったんですけども、ちょっとタスの東側ですよ。でも、その辺については、なかなかまちとつながらないと。あら町につながるんでしょうけども、一番わかりやすいのは、舟場の藩の船着き場のところから長井病院の裏手を通して、坊町通りにつながるところが長井の舟運の一番の繁華街であったということですので、そこが丸大扇屋につながり、あるいは質上醤油屋さん、長沼酒造さん、そして登録有形文化財を受けたところがあすこに集中していますし、それに遍照寺と總宮神社が続く、あやめ公園に続くと、文教の杜も続くということですので、そういったところから見たら、こちらの南に偏るんじゃないなくて、むしろ北のほうが、よく言われているように、北と南のバランスからいって、北のほうがどうも少しそういった部分で弱いかなと思っておりますので、何とか北の部分もいいのかというふうに考えて、立地については、選定については一応答申は受けておりますが、最終的にどうするかは、もう少しやっぱり再度検討しなきゃいけないというふうに思います。

○安部 隆委員長 渋谷佐輔委員。

○12番 渋谷佐輔委員 場所についても、いろ

いろ議論を深めて、適地というのはいろいろ考えられると思いますので、これから議論していきたいと思えます。

次に、だれが運営するのか。これはいろいろ運営形態はあるわけです。先ほど申し上げましたように、指宿市ではPFI方式、これは生産、加工、出荷まで全部やったような形でPFI方式、それから「かあちゃんの店」は、やっぱり母ちゃんたちが有志で運営をやっていくと、いろいろパターンがございまして、このたびの場合は地場産センターということで考えておられますが、それでコンクリートなさったということですか。

○安部 隆委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 これも、運営については当然いろいろな角度から検討しなきゃいけないというふうに思っております。例えばあやめの縁でいろいろつながりのある茨城県の潮来市も、今から10年前だそうです、道の駅をつくっておられて、これは市が出資した、やはり株式会社の三セクでやってると。市長が社長だと言っていました。これは9億円の売り上げがあるんだそうです。非常に利益を上げてると。この利益を市に寄附してると。7,000万円とか8,000万円とかということだんですけども、そういうふうに売り上げを上げれば、それなりにやはり指定管理者みたいな格好で今回は考えておりますので、指定管理料を限りなくゼロにできますし、そういったことで市のほうでは、それでも収益が上がった部分は市に寄附していただくみたいなことができるのであれば、やはり公的な団体がいいだろうというふうに思っております。

一方で、なかなか経営的に厳しいと、相当ないろんなノウハウが必要だといった場合には、やっぱりどこか受け手があれば、そういう民間でも、これも指定管理ということでしょうけども、可能性としてはあるのではないかと。ですから、まだこれから具体的に計画を立てていく

中で、管理者についても検討しなきゃいけない
と思っております。

一つ重要なことは、長井の場合は、物産は物産、観光は観光と分かれてます。地場産センターというのは、実は観光は余り担ってないです。物産だけなんです。観光協会というのは観光だけでして、物産はほとんど関与してないと。それがほかの市町村は一体でありますので、こういったところも一体にすることによって、観光物産ということで相乗効果が出るような考え方にしなきゃいけないと。これらも、運営主体については必要な考え方ではないだろうかと思っております。以上です。

○安部 隆委員長 渋谷佐輔委員。

○12番 渋谷佐輔委員 私もそう思います。ひとつ偏った考え方ではなくて、弾力的に議論をして、道の駅の効果というのを発揮していただきたいと。

最後に、利用者のニーズ把握と配慮ということですが、やはり利用者の志向というものが本当に大事だと思います。そういう意味で、市長は、これからどういうふうにとらえて進められるのか、お聞かせ願いたいと思います。

○安部 隆委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 今、菜なポート、地場産センターが代表となって、市内の市民直売所をなさってる団体と一緒にやってるわけですけども、利用者の内訳を見ますと、おおむね7割か7割強が市民の皆さん、3割前後が市外の方というような内訳になってるようでございます。今の菜なポートをどうするかということもまだ決定ではありませんけども、考えなきゃいけないと思いますけども、かわと道の駅の利用者については、まず第1に287号線を通る道路の利用者、それと観光シーズン、山形県には4,400万人、これは平成22年度の実数でございますけれども、うち2,000万人が県外客と言われております。この置賜に入るのは、恐らくそのうちのやっぱ

り残念ながら1割から2割ぐらいのようでございます。ですから、もう少し置賜自体も観光のお客さんも頑張らなきゃいけないんでしょうけども、ただ、置賜を通過して村山のほうに、特に寒河江、東根あるいは庄内に行くルートは、観光協会の方から言わせると裏の黄金ルートなんだと。だから、かなり観光客が通りますよと。ですから、そういった意味で、観光客の皆様をどのようにしてやはりここに寄っていただくかということをしちんと把握しなきゃいけないと思っております。

案内情報施設には、観光案内と情報提供拠点として、主に観光客など来訪者が利用することになるだろうと思っております。3点目として、フットパスなど歩く観光の最上川とまちなかを結ぶ拠点施設を出発点として立ち寄る方も考えられるんじゃないかなと思っております。あと4番目として、地場産品を使用した市民直売所、物産館、農家レストランなどの施設には、市民や来訪者の利用が最も多くなると考えられます。

以上の利用者の入り込み者数、売り上げ、整備後のランニングコストや経営のあり方などを検討いただいて、やっぱりこのかわと道の駅だけではなくて、今回の都市再生整備計画全体がどういうふうにならぬにつなげていくかということ、経済波及効果とか雇用効果なども含めて調査していく必要があるなというふうには感じるところです。やはりもう少し委員の皆様からもありましたように時間をかけて議論すべきだと。それと、中心市街地の活性化とか観光振興計画をどのように結ぶんだということがやっぱりなかなか見えないというのがごもつともだと思っております。ですから、それに加えて街路事業なども、このかわと道の駅とどういうふうにつなげていくかということなども、やはりそちらの視点からも検討しなきゃいけないと思いますので、そういった意味で、利用者のニーズ把握と配慮等について、もっともっと掘り下

げていかなきゃいけないというふうに思っております。

○安部 隆委員長 渋谷佐輔委員。

○12番 渋谷佐輔委員 最後になりますが、基本計画書の39ページ、今後の課題として、仮称かわと道の駅の実現に向けた課題、その中で、このため、広く市民等の意見を募集するパブリックコメントの活用を検討や、今後観光交流拠点施設計画検討委員会のような市民意向を反映する協議、そして調整体制を引き続き継続的に確立、維持していく必要があるという文言がございます。これについて、市長のご意見を伺いたいと思います。

○安部 隆委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 その問題、課題として整理いただいた内容はごもっともでありまして、そういった検討委員会的なものをやはり、例えばもし予算をお認めいただいて、実施設計を組んで着工ということについてはまだ時間がありますし、同時に、できるだけ早い時期にそういった検討委員会を設けて、あり方について、いろいろ市民の意見をお伺いするというと同時に、中心市街地の活性化のための協議会を、まずは任意の協議会をつくる予定でありますので、それをできるだけ早く立ち上げて、その中で、今例えば中心市街地の活性化に関する団体というと、結構いろんなものが考えられます。

そういった方々から、かわと道の駅についてどうするんだというあたりをまず方向性を示していただきながら、そういう検討委員会とか、あるいは中心市街地の中のかわと道の駅部会みたいなものも設けて検討するとか、少し整理をしながら、どういうふうにして市民の皆様意向とか、あるいは識見のある方たちの意見を取り入れて、成功度を高めるための取り組みとございますか、課題整理をまず行っていきいたいと思っております。

○安部 隆委員長 渋谷佐輔委員。

○12番 渋谷佐輔委員 今回は、市長からいろいろ胸の内を聞かせていただきました。何といっても、市民のお金を使わせていただくと、そして還元していくという、これは仕組みかと思いますが、ひとつ広く市民の意見を聞きながら、この事業を進めていっていただきたいとお願いして、質問を終わります。ありがとうございました。

○安部 隆委員長 以上で通告による総括質疑は終わりました。

これから補正予算案の細部審査に入ります。

なお、質疑に当たっては、答弁者並びにページ数をお示しの上、お願いいたします。

議案第51号 平成24年度長井市 一般会計補正予算第1号についての 質疑

○安部 隆委員長 それでは、議案第51号 平成24年度長井市一般会計補正予算第1号について、ご質疑ございませんか。

5番、小関秀一委員。

○5番 小関秀一委員 5番、小関秀一です。歳出10ページで、第6款1項3目で農業振興費が計上になってるわけです。一般質問でもちょっと質問させていただいた部分があったわけですが、若い人が就農するために国が今回、補助金を出して支援するという事業については、長井市も人・農地プランづくりを通して、ここまで段取りをしてきたということで、課長からは、17名の新規就農者の予定を見込んだので、この額を予算化したというふうな説明を受けました。

実は大変喜ばしいことと、先ほど来のふるさと交流定住事業との連携というふうなことも非常に大事だなというふうに私も思って、ぜひそれを連携して進めていただきたいというふうに